



左／別名「黒門」と呼ばれる秋月城本門は江戸時代前期の建造。福岡県指定有形文化財に指定されています。秋は周囲の木々が黄金色や紅色に染まり、紅葉の名所として愛されています。上／例年、小石原川の甘木橋下流で8月末に実施される甘木川花火大会。花火終了直後には「流灌頂」という慰霊祭が開催されます。甘木川に流される灯ろうは静かで、幻想的です。

Left/ The Akizuki Castle Gate, which is also called Kuromon (lit. a black gate) was built in the early Edo period. People like this area for its beautiful red leaves in autumn. Top/ The Amagi River Fireworks Festival is held downstream of the Amagi Bridge over the Koishiwara River at the end of August. A memorial service is held after the fireworks.

感動に近い

受け継がれてきた歴史とともにある暮らし

豊かさと祭りは密接な関係があります。多くの祭りは五穀豊穡を願うもの。伝統的に長く受け継がれている祭りは、豊かさが長く続いていることを意味します。朝倉市で執り行われている祭り、伝統行事を通じて、この町の魅力を感じてみてください。中には、毎年大勢の人々が県内外から見物に訪れるような奇祭もあります。

A traditional festival inherited for a long time in an area means that the richness of the area has been going on for a long time. Feel the charm of Asakura through festivals and traditional events held in the city.



10月21日に実施される蜷城くんち。美奈宜神社の御神幸の際、獅子舞が奉納されます。獅子が子どもの頭をかむと病気にかからず、勇猛に暴れると豊作になると言われます。この獅子はシュロで編んだ“みの”におおわれているのが特徴。みのほ県内初の選定保存技術保持者、シュロ縄職人・井上輝雄さんが手掛けました。

Hinashiro Okunchi features a shishimai (lion dance), dedicated on October 21 every year. It is said that a child's disease will be healed if the lion bites the child's head and that the lion's brave dance will bring bumper crops. The palm bark (called shuro) covering the lion's mask were made by an artisan, who has been certified as a selective preservation technique holder for the first time in the Fukuoka prefecture.



おしろい祭りは毎年12月2日に開催。大山祇神社を「山の神」とし、山の神は本来「女の神様」と言われています。その「女の神様」がお化粧をする事を「おしろいを塗る」というのです。おしろいは、新米を粉にして水でといたもの。この祭りでは、酒で火照った顔におしろいを塗り、そのつき具合によって翌年の作柄をみます。おしろいは家に帰るまで落とさず、牛馬の飼料に混ぜると無病息災になると言われています。

Oshiroi Matsuri is held on December 2 every year. Oshiroi (white powder) is made from new rice that is ground into flour, dissolved, and put on the face. In this festival, people paint their faces flushed with sake (Japanese rice wine) and forecast the crops of the next year from the painted patterns of their faces.



泥打祭りは福岡県の無形文化財に指定されています。例年、3月第4日曜日に実施され、御神幸（泥打ち）は15時頃から始まります。

Dorouchi Matsuri is designated as an intangible cultural asset of Fukuoka Prefecture. This festival is held on the 4th Sunday of March every year.

土地に息づく文化・伝統が笑顔をもたらす

受け継がれてきた伝統が心を揺さぶり、感動を生む。

朝倉市では一年を通してさまざまな祭事、行事が催されています。祭りとはその土地土地で脈々と受け継がれてきた文化の形。数十年、数百年と続き、人々をつないできた文化的な祭事や行事との触れあい、言葉にならない感動を呼び起こすものです。

例えばその一つが、三奈木くんち、蟬城くんちをはじめ、市内数カ所で開催される秋のおくんち。おくんちとは元々、無病息災、五穀豊穡を、神様に感謝するもので、今も朝倉市ではその伝統を大切に守り続けています。

Various types of festivals and events are held throughout the year in Asakura. One of them is called Okunchi. Autumn Okunchi festivals are held in several districts in the city, which include Minagi Okunchi and Hinashiro Okunchi. Okunchi festivals are originally for giving thanks to sound health and bumper crops. Asakura still keeps the tradition. Dorouchi Matsuri (a mud festival) in spring, Gion Yamagasa (festivals with floats) in the Shiwa, Kugumiya, and Amagi districts in summer, Okunchi and moon-viewing events in autumn, and Batabata Ichi (an open-air market) and Oshiroi Matsuri (a face paint festival) in winter reminds people of the arrival of the seasons. Participants can feel the transition of the four seasons on their skin. There are rare festivals that are unusual in other areas. Come and enjoy these seasonal festivals and events.

春は泥打祭り、夏は志波や久喜宮、甘木の祇園山笠、秋はおくんちのほかに秋月の観月会、冬にはおしろい祭りや甘木パタパタ市というように、それぞれの季節の到来を思わせるお祭りに参加すれば、肌で四季の移ろいを感じることができます。祭りで地元の人々と顔を合わせるたびに、そういった営みが地域の絆を深めているのだと、心に染み入るはずです。

祭事、行事が多いゆえに、朝倉市にはほかの地域ではお目にかかれないような珍しい祭りが存在します。その一つが阿蘇神社で3月末に行われる泥打祭り。氏子の中からおみくじによって選ばれたその年の代宮司は、境内の「神の座」につき、大きな盃で酒を飲みます。

氏子たちは合図とともに泥土を塗りつけ、代宮司はその泥土がついた状態で両脇を抱えられながら、地区はずれにある道祖神まで歩いていきます。その道中でも泥土を投げ付けられるのです。代宮司の体についた泥が多いと、その年は豊作であるといわれています。

大山祇神社で毎年12月に実施されるおしろい祭りも記憶に残ること請け合い。粉にした新米を水でとき、顔に塗る行事で、昔から近隣の農家、氏子の繁栄、五穀豊穡を祈願する全国でもほかにない奇習とされてきました。

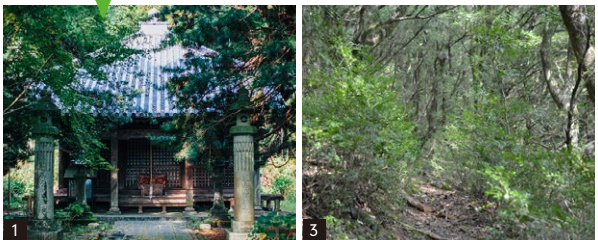
ほかの地域では体験できないユニークな伝統行事もまた、朝倉市の魅力なのです。四季折々の祭事、行事に出掛けてみてください。



左／朝倉地域の総社で、応神天皇、斉明天皇、天智天皇が祭られている恵蘇八幡宮。本殿裏の最高所には円墳2基があり、朝倉桶広庭宮で崩御した斉明天皇を仮に葬った陵墓とする伝承があります。右／朝倉市には巨木や名木が点在。多くは寺社仏閣のそばで寄り添うように年月を重ねています。写真は隠家森と呼ばれる樹齢1500年の大楠。国指定天然記念物で、関所があった頃に関所を通れない人々が夜まで身を隠したことから現在の呼び名がつけました。

Left/ Eso Hachimangu is a shrine in Asakura enshrining several gods Emperor Ojin, Emperor Saimai, and Emperor Tenji. Right/ The 1,500-year old giant camphor tree is called a hideout forest. This name was given in the age of feudalism when there was a checkpoint, people who could not pass through the checkpoint hid under the camphor tree until night.

Excitement Spot



1／鎌倉時代末期、聖武天皇の勅願をうけた行基によって創建された普門院。
2／市指定無形民俗文化財の甘木盆俄。
3／古処山には原始林の8割以上をツゲが占める全国的にも珍しいツゲ林が広がります。このうち約12haが国の特別天然記念物に指定されています。
4／三奈木くんちの御神幸行列の様子。
5／放置した粥のカビの生え具合や色具合で農作物の豊凶や天候を占う粥占い。

Old temples, traditional events, and skits as a city-designated intangible folk cultural asset still remains in Asakura. Asakura ensures that unique views, such as a Japanese boxwood forest, which cannot be seen in other areas will impress visitors.



わたしと朝倉

美奈宜神社 宮司
内藤主税さん

お祭りとは
感謝なのです

伝統は誇りとともに 伝承されていくことが 必要です



「蟬城くんち」の獅子舞はこの場所に500年以上も息づく伝統行事です。私が考える伝統とはつまり誇り。獅子舞においてもその演目を一人前にこなせるまでに3年以上を要します。難しいからこそ、受け継ぐものの誇りとなる。その誇りこそが、見物人たちの心を打つのだと思っています。ただし、文化の伝承は無理強いしてはいけません。心から受け継ぎたいという心が大切です。実は地元の中学校では1年生のときに伝統文化について学校で学ぶ機会があります。そういう場を作ること、私たち先人の役目なのかもしれません。



The shishimai featured by Hinashiro Okunchi, a famous festival of the shrine, is a traditional event that has been continuing here for more than 500 years. It takes more than three years for a person to become an expert in the shishimai performed here. It is difficult to become an expert and that is the reason shishimai performers are proud of their dance and their performance impresses the spectators. The important thing is not to force others to inherit the culture. It is necessary to hand down the tradition from generation to generation to those who heartily want to inherit it.





ちの
茅野アナリシアメグミさん
ブラジル生まれ、ブラジル育ち。18歳のときにソフトボールの留学で福岡へ。その後、愛媛、沖縄、東京などで暮らし、2016年7月に朝倉市に移住。ゲストハウス開業が夢。
Ms. Megumi Anarishia Chino

いまいずみ さち
今泉早智さん
福岡県出身。茅野さんとともに農業を取り入れたゲストハウスの開業を志し、2016年7月に愛知県から朝倉市へUターンした。現在は実践的に農業を学ぶ日々を過ごしている。
Ms. Sachi Imaizumi

ただ しんぺい
高田晋平さん
福岡県出身。2002年から木彫りの面白さを知り制作をスタート。2009年に朝倉市へ移住。ギャラリー兼ショップの「古今+（ここんたす）」をオープン。<https://www.ccn-t.com>
Mr. Shinpei Takada

にしもり まさと ときこ
西森正人さん、時子さん
2003年、定年を機に千葉県から朝倉市へ移住。元々、正人さんは転勤族。緑もゆかりもなかったが、印象のよかった福岡を選ぶ。地域のサークルにも積極的に参加し、多忙な日々。
Mr. Masato Nishimori
Ms. Tokiko Nishimori

人に近い

移住者対×談

あたたかさがつながる穏やかな暮らし

豊かな水、食がある場所には必然的に人も集まります。朝倉市は県内はもちろん、県外からの移住者も多く、そんな人々もあたたかく迎え入れる土壌があるのです。例えば、何代にも亘って暮らす人々にとって当たり前の風景も、移住者たちの目には新鮮に映ることも珍しくありません。朝倉ライフをスタートした5人の方々に話を聞きました。

Asakura is a city with many residents who came from outside the prefecture as well as from other areas in the prefecture. Five migrants talk about their lives in Asakura.



それぞれの思いを胸に 朝倉市での新生活。

——みなさんは何がきっかけで朝倉市に？

高田さん（以下高）：木工作家として活動し、ギャラリー兼工房の「古今+」を小隈で営んでいます。ここに移住する前は筑後市で暮らしていました。ここに創作活動に打ち込めるようにしたかったのと、展示場も構えたいと思っていたので、静かで、穏やかな環境を求め、朝倉市を選んだんです。

西森正人さん（以下正）：妻の時子（以下時）と一緒に朝倉市に移住したのは平成15年ですね。かれこれ朝倉市で暮らし始めて14年も経ちました。朝倉市について、随分と詳しくなったと思います。

時：以前、仕事で福岡に暮らしていたのも大き

いですね。自然がたくさんあって、ここでの楽しい生活がすぐにイメージできました。

正：私はずっと転勤族だったので、日本中、いろいろと見てきました。そんな中、人があたたかく、食べ物新鮮でおいしく、暮らしやすいという点からも、福岡に惹かれていたんです。定年を機に、美奈宜の杜で暮らすことになったのですが、その印象は変わらないどころか、さらに強くなりましたね。

茅野さん（以下茅）：私は**今泉（以下今）さん**と一緒にゲストハウスを始めるため、同時期にともに移住してきました。

今：ただ、ゲストハウスの開業はもう少し先になりそうです。当初から農業も取り入れたゲストハウスにしたいと思っていたので、現在は農業の勉強をしているんです。

茅：現在、育てているのが小松菜や春菊、ほうれん草、大根ですね。今泉さんと一緒に、農園に勤めながら、学ばせてもらっています。



実際に触れてみて 自然の豊かさに感動。

——朝倉市の第一印象は？

高：住んでいる場所が高速道路のインターへのアクセスが良く、学校も近くにあったため、現在の住まいを選びました。車中心の生活だ

と何の不自由もなく、とても快適な生活ですよ。ただ、電車はもう少し運行本数があるとさらに暮らしやすくなりますね。

正：交通のアクセスは確かに良いですね。甘木鉄道もあり、高速道路の便も良い。道路も広いです。例えば空港へ行こうと思った際には最寄りインターから車で30～40分くらいでしょうか。そういった意味でとても便利が良いのは事実です。電車などの交通機関については待ち時間が都会に比べるとちょっと長いということですかね。

時：やっぱり自然が多いということですかね。自然が多い！水が豊富！と感激したのを覚えています。近くで売っている野菜の美味しさにも感動しましたよ。安いですしね。

正：今暮らしている美奈宜の杜エリアは、私たち同様、定年後に来られた方が多いんです。周りも移住者ばかりだったという点はすごく心強かったですね。同年代が近くに暮らしていると安心感があります。

茅：確かに移住者は増えている印象があります。だからでしょうか、朝倉市民の方々はとてもフレンドリーで、“開いている”感じがしました。実際、モノをたくさんいただきます（笑）。夏はトマトやキュウリ、ズッキーニをもらって、すごく嬉しかったですね。お肉くらいしか買っていないかも。ご近所さんがドアノブに引っ掛けてく

ださっていて、そんな自然なやさしさがとても心に沁みました。

今：すぐに地域に溶け込めたような記憶がありますね。ご近所づきあいがあったという間に始まって、実際、自分が昔からここで暮らしているような感覚をおぼえます。

高：私も知り合いがいらない中、ポンと地域の中に入っていた感じになるんですが、野菜をいただいたり、声を掛けていただいたり、とにかくみなさんに気に掛けてもらっているという安心感があります。

繰り返される日常の中で 暮らしやすさを実感。

——実際に暮らしてみて気が付いた魅力は？

正：とにかく楽しんでいる人が周りに多いところですね。美奈宜の杜ではサークル活動も盛んで、テニス、卓球、ゴルフ、ヨガ教室というようにバラエティ豊かです。毎日が本当に忙しいと思えるくらい楽しんでいます。自分たちが暮らしているすぐそばに豊かな自然が広がっているんだということも実感できます。

時：まちがきれいに整備されていて、全体が



潤っています。田舎暮らしとは少し違って生活自体は上質なんです。そしてとても水がおいしいです。以前は鹿児島から天然水を取り寄せていたのですが、ここでは蛇口をひねって出てくる水がおいしいので贅沢です。

高：田舎らしさというのはちゃんとありますよね。なんというか、インフラが整っていないという意味ではなく、人の心、内面の話です。例えば、中学生くらいになると、ちょっと構えていたりすると思うんですが、移住してきて、道行く中学生のほうから「こんにちは」と挨拶された時には、感動すら覚えました。学校の生徒数が都心に比べてやや少なく、先生の目が行き届いているのかもしれないなと思いましたよ。

今：田舎らしいのどかな景色に囲まれた暮らし

をしているながら、少し車を走らせるだけで、ちゃんとまちもあるんです。自分のペースで暮らしているなど実感しています。

思いがけない楽しさ、 退屈しない日々。

——朝倉市ならではのユニークな体験をしたという話を聞きました。

正：そうなんです、野生のシカにばったり出会ったものすごく驚きました。ほかにも、イノシシ、ウサギ、本当にいろんな動物を見ましたよ。

茅：私たちもシカを見かけましたよ。しかもバーベキューにお呼ばれをしたとき、鹿肉を食べさせてもらったんです。

今：焼いたらクセが出てしまうから、一番おいしい食べ方は生肉だと。これも貴重な経験ですね。

高：食べてみると馬刺しのようなんですよね。塩も良いですが、醤油につけて食べるのが美味しくて。

一同：(笑)

——シカの話でこれほど盛り上がるというものすごいですね！

茅：こういう経験をさせてもらえたのも、地域の一員になれたからなのかなと思います。私は地域の運動会に参加してみたこともありますよ。

今：そうやって地域のみなさんとつながりができるように、顔を出してみるって大切なんだなと思いました。

——みなさんが生き生きと生活されていることはよく分かりました。

時：四季折々に出会える景色も変わりますからね。例えば朝倉市は甘木公園の桜も有名で、それはもう、見事な風景が広がりますよ。また、市内には多くの名所旧跡があって、楽しんでいます。



正：初夏になれば山地のほうではホテルが観賞できますし、秋になれば秋月城跡の界隈が紅葉の名所になります。ここは春なら桜並木が続き、気に入っています。朝倉市は本当に風光明媚な土地ですよ。ここで暮らすようになって、日々のさまざまなシーンの中で季節の色に触れられるようになりました。

高：私が暮らす場所は平野のほうですが、それでも秋に柿が実り、葉もオレンジ色になっていく様子を見て心が洗われたことがあります。

——日常が充実していますね。

正：見て美しい自然もありますが、食べておいしい自然もあります。私は趣味で野草や山菜などを採っているんですよ。例えば春になればタケノコやたらの芽、秋になると山栗というように、季節の味覚に触れるのも毎年の楽しみになっていますよ。

今：自然が身近にあるだけで、多くの喜びがありますよね。



撮影協力 [共星の里]



廃校となった黒川小学校の校舎を利用した美術館。ここでは、国内外のアーティストを奔放に混在させ、正解のないアートを自由な感性と、あたたかい心で発信しています。館内には喫茶コーナーもあり、気軽に訪れることができます。構えず、ふらりと立ち寄ってみてください。

Photographing in cooperation with Kyouseinosato

This museum utilizes the facilities of Kurokawa Elementary School, which was already closed down. There is a tea parlor inside, where you can feel free to visit for a cup of coffee.

Feeling the ease of life in everyday life

Mr. Takada selected Asakura in search of a quiet and calm environment. Mr. and Ms. Nishimori saw various areas in Japan, they have been attracted by Asakura among them for its rich nature, warm people, and delicious food. Ms. Chino and Ms. Imaizumi moved to Asakura in order to open guesthouses. Currently, they are studying agriculture. They moved for various reasons, and all of them feel the ease of living in Asakura. There is an expressway interchange and Asakura has good access. It is a convenient and comfortable city if you have a car. They were impressed with the abundance of nature and water. Circle activities in a wide variety, including tennis, table tennis, golf, yoga, are active in the Minagi no Mori area. It seems that many people think that the town is well maintained. It means that it is easy to live in Asakura, where infrastructure is developed while the advantage of good rural life is maintained.

An unexpected pleasure Everyday life is not boring

"I came across a wild deer and was quite surprised. In fact, I can see various animals, such as boars and rabbits," says Mr. Nishimori. Ms. Chino was invited to a barbecue by local folks and she had a chance to eat venison. She says it was like horse meat sashimi and delicious with soy sauce. It is unique that they share such unusual experiences. Ms. Imaizumi says that he had these unusual experiences because he was accepted by the community and recognized as a community member. Mr. Nishimori says that it is necessary to have a proactive attitude to have connections with the local community, which include his participation in local sports events. When people are settled in the area, they will be able to see the surroundings very well. They are deeply moved by seasonal changes in views. Everyone says that Asakura is a scenic area throughout the year where people can see cherry blossoms in the spring, fireflies early in summer, and red leaves in autumn.



自然に挨拶ができること、誰とでも仲良くなれること。
簡単なようでなかなか難しいものです。保育所や小学校で元氣いっぱい遊ぶ子どもたちは、あたたかい大人たちの目によって、まっすぐに成長しています。

子育てを支える、 思いを支える。



さまざまなサポートで子どもたちの成長を見守る。

安心な環境で子育てを。

次世代を担う子どもたちは、家族だけでなく、地域にとっても宝です。

朝倉市では、子育てに関する不安や負担を少しでも取りのぞくため、多様な働き方や暮らし方に合わせた子育て支援、そして保育サービスの充実に取り組んでいます。

その一つが市内3カ所にある子育て支援センターです。ここでは、育児に関する不安や悩みを専門員に相談できるほか、育児講座や親子で楽しめる催しもあります。

そのほか、「子育てのお手伝いが必要な人」と「お手伝いができる人」とをつなぐ「ファミリー・サポート・センター」など、地域全体で子育てをする仕組みがあります。

市内には16の保育所、15の学童保育所があ

ります。ほかにも、病気の回復期などで、昼間家庭で育児ができない場合に一時的に預かる病後児保育もあり、働きながら子育てをする世代を心身ともに支え、応援しています。

また、朝倉市では子ども医療費の支援と合わせ、1歳から中学生までを対象にインフルエンザ予防接種料金の助成を行い、子育て世代の経済的な負担軽減に努めるほか、産前産後の親を対象とした各種教室や相談会なども開催しています。

学校教育では、自ら学び、考える力などの「生きる力」の育成を基本として、確かな学力、豊かな心、健やかな体という「知・徳・体」がバランス良く育まれていくような教育を目指しています。そして、異なる学年での交流、地域交流も推進。年齢や性別の分け隔てなくコミュニケーションがとれるような社会性の育成に力を入れています。

Asakura is working on childcare support and nursing care services for the diverse work styles and lifestyles of people. There are three child care centers, 16 nursery schools, and 15 schoolchild care centers. The city has a completed mechanism to raise children.

根底にあるのは、誰にとっても暮らしやすい街づくり



自助・共助の精神

「自分たちのことは自分たちで守る。自分たちの地域は自分たちで守る」という自助・共助の精神のもと、例えば木々に囲まれた山あいの地域、また、筑後川沿いの開けた地域というように、市内においても大きく環境の異なる地形や土地の特色に合わせた仕組みづくりを行っています。避難訓練をはじめ、災害時に備えた要支援者リストの作成、日頃の見守り活動を地域で担うことで、自助・共助を支えています。

Citizens' voluntary activities are taking place to make Asakura a city that is easy for everyone to live. Disaster prevention activities, such as evacuation drills, to suit the features of the terrain and land, are conducted in each district. There are 17 district community organizations in the city, and various activities and events are carried out according to the character and history of each district.



特色ある17の地区コミュニティ

日常の中での出会いや多様な地域活動への参画を通じて、人と人との共同意識や信頼関係を築き、その上で、私たちが住む地域を自らの力で住み良くしていく。そのために住民自治組織として17の地区コミュニティが発足し、生涯学習、高齢者支援、自主防災、環境整備、健康増進・福祉事業の推進、伝統文化の継承などの特色ある活動が行われています。